

# 田口 真 氏

(高校35回卒)

立教大学 理学部 教授

専門：惑星大気物理学



## <経歴>

- 1987年 3月 東北大学理学部卒業
- 1989年 3月 東北大学大学院理学研究科修士課程修了
- 1991年 1月 東北大学大学院理学研究科博士課程中退
- 1991年 1月 東北大学理学部助手
- 1995年 3月 東北大学より博士（理学）の学位取得
- 1996年 9月 国立極地研究所助教授
- 2000年 7月 第42次日本南極地域観測隊員（2002年3月まで）
- 2007年 4月 JAXA宇宙科学研究所客員助教授（のち客員教授）（併任）  
(2011年3月まで)
- 2008年 4月 立教大学理学部教授
- 2009年 8月 文部科学省学術調査官（併任）（2011年7月まで）
- 2012年 4月 国立極地研究所客員教授（併任）

## <主な活動内容>

研究の専門分野は地球や惑星の超高層大気物理学。東北大学大学院から助手の時代は赤外分光によりオゾン層を研究し、この研究により学位を取得しました。

日本初の火星探査機「のぞみ」に搭載された紫外撮像分光計の開発に携わりました。

国立極地研究所に異動した後はオーロラの研究を始めました。オーロラ観測のために、2001年に日本南極地域観測隊員として南極昭和基地で越冬したほか、米国マクマード基地や南極点基地を訪れました。

月探査衛星「かぐや」超高層プラズマイメージャ副主任研究者、金星探査機「あかつき」

中間赤外カメラ主任研究者を勤めました。現在、立教大学で物理学及び惑星・宇宙科学を教えつつ、惑星大気やオーロラを研究しています。

### <受賞歴、メディア実績、発行物等>

- ・Antarctica Service Medal of the United States of America (1999)
- ・日本学術振興会 平成 25 年度科学研究費補助金特別研究員等審査会専門委員表彰 (2013)
- ・地球電磁気・地球惑星圏学会 田中館賞 分光観測による地球および惑星大気の研究 (2022)
- ・学術論文 (査読付き)

Fukuhara et al., Large stationary gravity wave in the atmosphere of Venus, *Nature Geoscience*, doi:10.1038/NGEO2873, 2017. (Corresponding Author: M. Taguchi)

他 60 編以上

### <高校時代はどんな学生だった？>

高校時代はサッカー部活動の傍らで、週末に時間があると徹夜で望遠鏡で星を眺めていました。そのときからの興味が現在の職につながっています。サッカー部では練習がきつかった思い出しかありませんが、そのおかげで少々の肉体的苦痛には耐えられる心身が培われて、今の研究活動に役立っていると思っています。3 年生のクラスでは一丸となって臨んだ体育祭や文化祭の打ち上げが大いに盛り上がった記憶があります。今年の正月に久しぶりにその時の同級生と会いました。なんと、卒業以来毎年欠かさずに 1 月 2 日に同窓会をやっていたのだそうです。

### <在校生・卒業生（後輩）へのメッセージ>

月並みですが、人生は一度きりです。自分がやりたいことを見つけて、あきらめずにそれを追い求めましょう。

立教大学は文系の大学だと思っている人が多いかも知れませんが、理学部もあります。宇宙に興味がある人は是非来て下さい。



1998 年 南極点基地 オーロラ観測装置設置



2001 年 南極観測隊 昭和基地



2012 年 北海道大樹町 気球実験